

平成25年4月27日28日。
東京体育館で国際親善大会、女子世界大会が開催されました。

横浜北支部から下記の5吊が入賞しました。

10歳男子 40kg以下級 優勝
多久田和馬



昨年、全国大会を制した多久田が国際大会でも優勝。

初戦から一本勝ちを飾るも、優勝を意識したせい動きが硬い。
それでも圧倒的な攻撃力で決勝に進出。

相手は昨年の全国大会決勝と同じライバルの堤選手。

圧倒的な強さで勝ち上がってきた堤選手は長いリーチで抜群の攻撃力を誇る。

予想通り試合開始と同時に激しく一進一退の攻防を繰り返す。

本戦では決着がつかず勝負は延長戦へ。

ここで多久田は今大会一番の動きを見せた。
堤選手の下段回し蹴りの猛攻をフットワークでかわして反撃する。

そして僅差の判定で多久田が全国大会に続けて優勝を決めた。

多久田にとっては優勝よりもライバルと戦ったことで自分の潜在能力が引き出されたことが嬉しいに違いない。

10歳11歳女子40キロ超の部 優勝
知念琉花



昨年、準優勝だった知念が念願の優勝を果たした

大会では全試合本戦で決着をつけるほど好調だったが、実際は試合出場も危ぶまれるほどの状態だった。

今大会にかける意気込みからオーバーワークを起こし、疲労骨折を起こしてしまったのだ。

大会数ヶ月前から絶対安静で、大会にはぶっつけ本番で出場することになった。

大会当日、久しぶりに身体を動かすことに違和感を感じながらも着実に勝利を重ねる。

今まで稽古で鍛え上げた精神力は、万全の状態ではなくとも揺らぐことはなかった。

決勝でも試合開始から終始ペースを握り、危なげなく優勝を決めた。

今後、コンディション調整を万全にしたら国際大会連覇も夢ではないだろう。

6歳男子の部 第3位

渡辺民生



試合に出始めてまだ1年も経っていない渡辺が初出場の国際大会で入賞。

幼稚園の頃から高い集中力で稽古に取り組み、出場する試合では全て入賞している。

今大会でも大舞台に臆することなく実力を発揮。

一気にベスト4まで上り詰めた。

大舞台を経験したことで今後は更に意欲的に稽古に取り組むに違いない。

まだ小学1年生の渡辺が、小学生の間にどれだけ強くなるのか楽しみだ。

8歳男子の部 第3位

小嶋良羽将6歳男子の部 第3位



関東大会や地方大会では高い勝率を誇る小嶋が念願の国際大会初入賞。

試合の2ヶ月前の試合で肘を骨折してしまい、大会を棄権する予定だったが、脅威の回復力で試合直前に完治。

稽古ができなかった分を取り返すかの如く、短期間の猛稽古で調子を仕上げた。

試合では絶対に下がらないという意気込みで勝ち上がりベスト4に進出した。

壁を一つ破った小嶋は、今後の全国大会、国際大会でも高い勝率をあげるに違いない。

女子世界大会 中量級 第4位 日比野愛里



センター北道場の日比野が世界大会初入賞。

威力が増した突き技と多彩な足技で海外の強豪選手を退けて準決勝に進出。

準決勝では日本のトップ選手である田崎選手に敗退したが、今後の活躍を期待できる内容だった。

まだ20歳と若い日比野は、今大会の経験を活かして更に強さを増すに違いない。

✕ 閉じる